

大鹿村中央構造線博物館たより 100号



祝100号

2017年9月発行

TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

岩石園の石が綺麗になりました！

7月30日（日）、昨年に引き続き、浜松の徳田さんが岩石園の洗浄にきてくださりました！黒ずんでいる岩石に高圧洗浄機をあてると、みるみるうちに模様がかっきりと見えてきます。徳田さんによりますと、石灰岩や花崗岩は^{かこうがん}大して綺麗にならないのに対し、かんらん岩などはとても綺麗になるそうです。猛暑の中での作業で、本当に頭が下がります。岩石園は24時間365日いつでも見ることができますので、是非きれいなうちに石たちを見に来ていただければと思います。（宮崎）



写真1 洗浄中の様子

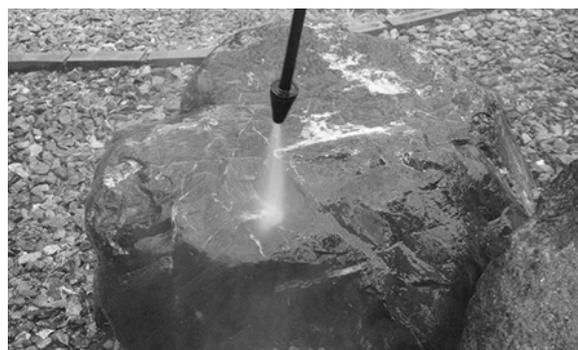


写真2 まさにクールビューティー！？

「大鹿村ジオツアー」今年も開催！

8月19日（土）～20日（日）で大鹿村ジオツアーを開催しました。幸い雨に降られず、おだやかな天候の下、マイクロバスで大鹿村内を巡りました（写真3）。1日目はまず安康露頭（写真4）へ行った後、安康南沢でマイロナイトの露頭を観察し（写真5）、一度博物館に戻って地形地質模型で中央構造線の位置を確認しました。その後、福德寺（写真6）に寄ってから、宿泊地の赤石荘へ行きました。2日目は夕立神展望台（写真7）へ行き、展望台入り口の^{りよくしよく}緑色岩（海底で噴出した玄武岩溶岩が海水と反応して緑色に変質・変成したもの）露頭を見た後、豊口山の石灰岩（石灰質の殻を持つプランクトンの^{しがい}死骸）の岩壁や、小河内沢沿いの^{こごうち}チャート（石英質の殻を持つプランクトンの死骸）の岩壁を遠望しました。これらの岩はみな、長い時間をかけて、海のプレートに乗って遠くから運ばれてきて、まだ日本がアジア大陸の一部だった時代に陸のプレートに付け加わった岩石である（図1）という説明に、遠い目をしておられる方もおられました。その後、中尾集落の上から中央構造線の谷を眺め、さらに河合鞍部（あんぶ）の近くで中央構造線近傍の破碎（はさい）された岩を観察しました（写真8）。さらに下って、黒部^{せんじろう}銃次郎の洞窟と、塩湯荘の玄関のところにある塩泉の出る井戸を見学させていただき（写真9）、分けていただいた源泉の水を味見しました。昼食後は、大西公園へ行き、昭和36年の巨大な崩壊跡が眼前に迫る景色を見て、参加者の方々は驚いておられました（写真

10)。最後に、博物館前の小渋川の河原で石ひろいをしました。河原で一番多く落ちているのが灰色の**砂岩**ですが、緑色の**緑色岩**もちらほ見られます。ときどき白い石もありますが、**石灰岩**なのか、**チャート**なのか、区別が付きにくいので、トイレ掃除用のサンポールをたらしめてみて、確認をしました（塩酸をたらしめて化学反応が起これば**石灰岩**）。

二日間通して、参加者の皆さん方が大変熱心で、終始質問が飛び交っていました。特に、岩石の種類の見分け方について興味をお持ちの方が多く、ツアー終了後も、自家用車で来られたお客様たちは、引き続き学習室に残って河本学芸員に偏光顕微鏡へんこうけんびきょうで岩石を判別する方法を教わる方、大鹿村の岩石標本作りに取り組まれる方などで熱気あふに溢れていました（写真11）。1週間学芸員実習に来てくれていた大学生の渡邊君も大活躍！参加者の質問に一つ一つ丁寧に答えてくれていました。皆さんお疲れ様でした。（宮崎）



写真3 バスで村内を回るよ！



写真4 中央構造線安康露頭



写真5 安康南沢のマイロナイト露頭



写真6 福德寺歴史解説



写真7 夕立神展望台



写真8 河合鞍部近くの破碎の激しい岩



写真9 塩湯荘の塩泉井戸



写真10 大西山の崩壊地



写真11 ツアー後も居残り勉強中！

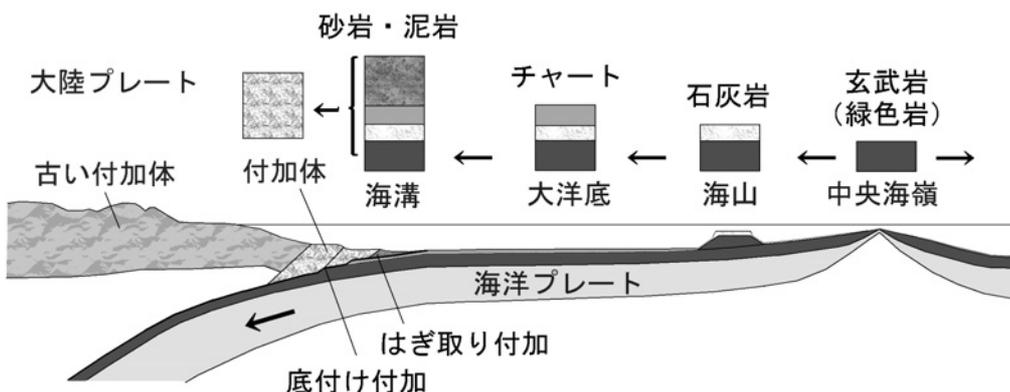


図1 付加体の岩石が誕生した場所と移動（博物館展示パネルより抜粋）

※「付加体」とは、海洋プレートが運んできた緑色岩、石灰岩、チャートと、大陸から海溝に流れ込んだ砂や泥が、大陸プレートの下に沈み込むときに、大陸に付加したものだ。